



地域の核、高知県立窪川高校

この窪川高校の周りに閑静な住宅街がある。この静かな街は、窪川地区では住宅地として一等地といわれる。毎朝、この住宅街の緩やかな坂道を窪川高校の生徒と、香月が丘にある窪川中学校の生徒が、入り交じりながら登校する風景は、この地区周辺に活気を与えてくれている。

さて、街の中に行くと気がつかないが、遠くから眺めると、まるで高校をお城とした城下町に見える。人々の熱意と努力によって再建された「お城」が街を守っている。

この町の核をなすのは、県立窪川高校である。この地は、元は県立の養蚕試験場であった。昭和17年に旧窪川（尋常）小学校（現在の場所ではない）の敷地内に高知県窪川農業学校（昭和23年窪川農業高校↓翌年窪川高校に）が創立され、すぐに現在の四万十農協、農村環境改善センターがある場所に、新校舎が建てられた。ところが建設間もない新校舎が焼失してしまう。窪川地域の期待を集めて開校し、新校舎も整備され「さあ、これからは！」というさなかの出来事であった。開校に尽力した人々は

さぞ落胆したことであろう。しかし、人々は、養蚕試験場の間借りというかたちで、この学校を存続させる。当時、養蚕試験場は、養蚕技術の向上を支え、産業としての発展に大きく貢献し、一定の役割を果たし切った局面にあったことも、農業高校の移転受け入れに追い風であったという。

間借りから始まった移転であったが、くわの木を掘り起こしてグラウンドを整備するなど、存続への懸命の努力を重ねて、現在の窪川高校の基礎が作られたのである。

四万十町
町内「ふらへり」散策

北琴平町

きたことひらまち

前 月号で紹介させていただいた香月が丘に隣接する、四万十町の「閑静な住宅街」「文教地区」といえる北琴平町。この地区も香月が丘と同じく、古くは、時のお殿様が狩りを楽しんだ丘陵地帯の一部であったという。

さぞ落胆したことであろう。しかし、人々は、養蚕試験場の間借りというかたちで、この学校を存続させる。当時、養蚕試験場は、養蚕技術の向上を支え、産業としての発展に大きく貢献し、一定の役割を果たし切った局面にあったことも、農業高校の移転受け入れに追い風であったという。

朝夕、この坂を中高生が通う

町のうごき	(11月30日)		人口		前月比		出生		死亡		転入		転出	
	男	女	計	世帯数	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	9,040	10,156	19,196	8,803	-4	-1	-5	2	7	11	18	7	15	23

※(11月中の届出)

四万十川の
水質状況

	適正值(mg/l)	12月7日
リン酸	≤ 5.0	測定値以下
硝酸	≤ 0.5	0.346
アンモニウム	≤ 5.0	測定値以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.55
化学的酸素消費量	≤ 10.0	測定値以下

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●
※広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)